

水無神社例大祭

天下の奇祭

みこしまくり

7月22日
23日



四百年の
悠々の時を超え
受け継がれていく
木曾福島の夏祭り



よこまくり

御輿渡御と山車



たてまくり

みこしを地面に放り落として、バラバラに壊してしまうまで続けられる壮観なお祭り「みこしまくり」は「天下の奇祭」として有名です。

このお祭りは、その昔、飛騨高山に近い一宮で百姓一揆が起り、村の氏神様の祀られている水無神社が戦火に巻き込まれた時、木曾から出稼ぎに来ていた「宗助」と「幸助」の二人が火の中に飲み込まれそうになった御神体を木曾へ運び出し、たどり着くまでの出来事がルーツとなっているといわれています。

御神体を運び出されたことを知った村人たちは取り戻そうと飛騨と信濃の境まで追ってきました。二人と追っ手はもみ合いになり、いつしかみこしは峠から木曾の方へと転げ落ちてしまいました。やつのことで木曾の伊谷へたどり着いた時、村人たちはこの二人の偉業を称え歓迎したということです。そして現在、この故事にならって「そうすけ・こうすけ」と掛け声も勇ましくみこしをまくる（転がす）のだそうです。

この男性的な〈奇祭〉は実は女性の神様の高照姫命を御祭神とする水無神社の例大祭です。毎年7月22日午前、新しく造られた約100貫（約400kg）のみこしに、神様を移す儀式が行われます。その後一行は、山平、上ノ段、八沢、の順に町内を廻り、翌日7月23日だんじり（約300年前の山車）に先導されて夕方、関町に入ります。そしてクライマックスを迎えるのです。「精進」と呼ばれる主役の2人「宗助」と「幸助」の指揮によって梓持衆の肩に担がれ「そうすけ、こうすけ」と勇ましい掛け声をかけながら地面に放り落とされ、タテにヨコに転がされ翌朝神社に戻るまでにはすっかり壊れ果てています。

なお言い伝えによりますと、赤ん坊を抱えてみこしの下をくぐらせると、その子の一生は健康で災難にあわないといわれ、みこしが町内を練り歩く間に何人も赤ん坊がみこしの下をくぐります。また壊れたみこしの断片を屋根に上げると、災難除けになるとされており、きそってみこしの破片を奪い合う光景が見られます。



木曾踊り

◆関連イベント◆

- ◇木曾清流太鼓
7月22日14:20~14:40
木曾福島駅前（雨天中止）
- ◇大煙火大会
7月22日20:00~21:00
関山公園（雨天23日同時刻）

- ◇木曾ナンチャラホイ
7月22日21:00~21:15
木曾福島支所前（雨天中止）
- ◇木曾踊り
7月22日21:15~22:00
23日19:15~20:00
木曾福島支所前（雨天中止）

- ◇よさこい木曾町
7月23日
19:00~19:15
木曾福島支所前（雨天中止）

注：都合によりイベントが変更・中止となる場合もあります



大煙火大会